



114
A1567



八年七月一日ヨリ全九年六月三十日ニ至ル會計
一周年間當省ニ於テ施行セシ會計ノ事務ヲ統括シ出
納ノ計算ヲ查訂シ以テ各其實況ヲ明載シテ第二回年
報書ヲ編成シ謹テ閣下ノ左右ニ奉呈ス冀クハ奏上ア
ラントラ

明治十年

大藏卿大隈重信

太政大臣三條實美殿



石橋

大正十一年四月

2501



大藏卿第二回年報書

茲ニ本會計年間政府出納ノ大計ヲ提記シ全國會計ノ
實況ヲ明載セントスルニ當テヤ歲入歲出上ニ於テ勉
メテ重複ニ屬スル員數ヲ刪除シ專ラ其實額ノ精算ヲ
得ルヲ以テ緊要ノ主務トナス然リ而シテ明詔八年^{六月}已
前ニ係スル收支中ニ於テ一二ノ重複ニ類スル員數十
カラスト雖モ彼此對照邊カニ刪除シ得ヘキ條件ニア
ラス故ニ姑ラク之ヲ存置ス其他準備收支ノ中ニ於テ
所謂運轉貸金及其返納金ノ如キハ之ヲ他ノ歲入出ニ
比スレハ其性質ヲ同シフセスト雖モ既ニ前年度ニ於
テ貸出セル金額ノ本年度ニ至テ返納スルモノハ之ヲ
歲入ト做シ又本年貸出ノ未納額ハ之ヲ歲出ト做シ以

テ計算スルニ非サレハ其會計年首ノ越高及ヒ其年末ノ殘金ヲ掲出スルヲ得ス蓋シ是等ノ情實アルヲ以テ下表ニ掲載スル歳入出ノ總額ハ多少其實數ヨリ超過セサルヲ得ス是他ナシ該表ハ本會計年收支ノ現計ニシテ固ヨリ精計決算等ノ類ニ非サレハナリ

明治八年七月一日ヨリ全九年六月三十日ニ至ル會計一週年間常用甲乙部及ヒ準備歳入ノ現計左ノ如シ

海關稅	一、七四〇、六七二	七六九
地稅	五六〇、二八三	一四九〇
各種ノ稅	六、八七一、八九九	九五七
官工收入	三、二八九、一五七	二六四
諸返納及利息	三、五三五、八〇六	五八七
諸稅延納	三、五二九、九三二	五九五
諸費過渡及遣拂殘返納	六、四三一、九八七	一七五
支那政府ヨリ收入	六三二、一二〇	六四〇
地所及諸貸下料養土水石其他用品拂代	一、九一四、八七〇	七九
雜收入	二、五三一、一四四	六六〇

歲入通計

八年七月一日越高

總計

八六、五〇、五、一二一	二一六
二八、六八二、五二五	三五二
一一五、一八七、六四六	五六八

明治八年七月一日ヨリ全九年六月三十日ニ至ル會計
一週年間常用甲乙部及ヒ準備歲出ノ現計左ノ如シ

四兆

官院及各省局	一二、九五三、六六四	〇九九
陸海軍省及兵器軍艦買上代	一三、五七五、〇八九	五九四
使廳府縣及警察費	七、七五四、二六一	四七五
府縣營繕堤防	一、六一〇、五八七	三一
秩祿奉還賜金	七、七五〇、〇〇〇	〇〇〇
在外公使領事館及外國博覽會	七、八二、三四三	九一六

内外國債元利

賞典及家祿

貸渡

舊諸費

過誤納下戻

雜件費

歲出通計

假出過額

九年六月三十日殘贏金

總計

四、一四三、三九六	二七〇
二〇、五九八、一四二	〇二七
五、八〇七、二八五	三八二
二、五三四、四七四	九四五
四、六四九、四九四	六〇〇
四、四六九、一二六	四五六
八六、六二七、八六六	〇七五
五、〇四三、四二四	一〇七
二、三、五一六、三五六	三八六
一、一五、一八七、六四六	五六八

明治九年七月一日ヨリ全十年六月三十日ニ至ル會計
一週年間歲入歲出ノ豫算左ノ如シ

大 歳 算

歲入ノ部

海關稅	一、七六二、五五四	〇	〇	〇
地稅	四六、五五六、七四三	〇	〇	〇
鑛山稅	一一、〇五五	〇	〇	〇
祿稅	二、二九二、四八九	〇	〇	〇
北海道物產稅	三七、〇五九二	〇	〇	〇
琉球藩貢納	三四、九二五	〇	〇	〇
酒類稅	二、三七三、八五九	〇	〇	〇
煙草稅	五三九、九四八	〇	〇	〇
証券印紙諸稅	五三一、八八一	〇	〇	〇
郵便稅	六五二、八八四	〇	〇	〇
諸印紙稅	五二三、五八八	〇	〇	〇
各種ノ稅	八〇、四三六六	〇	〇	〇

歲出ノ部

汽車電信	八五六、八二五	〇	〇	〇
鑛山諸製造	一、五九八、五三五	〇	〇	〇
造幣收入	七七、〇八〇	〇	〇	〇
官有物所屬收入	九六二、二五四	〇	〇	〇
稅外及雜入	一、〇二六、八四九	〇	〇	〇
諸貸金返納	一、三二五、四九六	〇	〇	〇
歲入總計	六二、九九五、六四三	〇	〇	〇
皇室及皇族	八二七、五〇〇	〇	〇	〇
官院省局	一、五三〇、〇三二	〇	〇	〇
陸海軍省	一〇、七九九、七〇〇	〇	〇	〇
使廳府縣	七、二六三、一六〇	〇	〇	〇
警察費	七五〇、〇〇〇	〇	〇	〇

神社費	二二〇、〇〇〇
府縣管轄堤防	一、六三九、〇〇〇
在外公使領事館	五四八、三〇〇
國債償還	五、五五一、四四七
諸祿	一七七、五三七七
雜出	五五九、五一〇
諸貸出金	五〇〇、〇〇〇
非常豫備	一、三三〇、〇〇〇
歳出總計	六二、九九三、八四七

右ニ掲載セル九年六月三十日ニ終ル會計一週年間ノ歳入出ハ其金額頗ル巨大ナリ之ヲ以テ第一回年報書中表記スル所ノ本會計年ノ豫算ニ比較セハ其超過ス

ルノ收支上各々壹千數百萬圓ノ多キニ至レリ其然ル所以ノ者ハ本會計年ニ属スル收支ノ外猶ホ前年度ニ係スルモノ、本年間ニ入出セル金額ヲモ合計スレハナリ其内譯ノ如キハ第三号表以下ニオイテ表記スヘシ

九年六月三十日ノ殘金ヲ以テ八年七月一日ノ越高ニ比較セハ夥多ノ減額ヲ生スルニ由リ本會計年間ニ於テ大ニ支出スルモノアルカ如シ然レモ其實七月一日ノ越高ハ金銀銅地金及ヒ米穀其他洋金銀等ヲモ合算セシニ六月三十日殘金ノ如キハ此回出納簿記法ノ改正ニ依リ右等ノ如キモノハ悉皆之ヲ除算シ單ニ現存ノ貨紙幣ノミヲ以テ算定セシナリ今ヤ若シ六月三十日ノ殘金モ亦猶ホ七月一日ノ越高ノ如ク金銀地金及

米穀等ヲモ加算セハ前條殘金ノ外ニ於テ左ノ如キ
 金銀銅地金 四、三二六、三八三、三二四
 洋金銀貿易銀 八三〇、六〇三、二四二
 貯蓄米及ヒ資本金 一、七四三、四〇三、一六三
 價格ヲ有スル現品ヲ存置スルニ由リ七月一日ノ越高
 ヨリ超過スルノ百七拾三萬四千貳百貳拾圓餘ニ至ル
 へシ
 歳入總額ヲ以テ歳出總額ニ比視セハ少シク及バサル
 所アリ蓋シ本年間ハ國家多事ニシテ經費百端ナリト
 雖モ其收入ヲ以テ其支出ヲ補フ能ハサルノ致ス所ニ
 アラス前條歳出ノ科目ニ就テ之ヲ觀レハ職トシテ貸
 出金ノ巨多ナルニ由テ生スル所ナリ又本年間收入ス
 へキ金額ハ稍々延納スルモノアリ支出ノ定額等ハ例

期ノ如ク之ヲ支給セサルヲ得ス是等ハ他日各其年度
 ノ結算ニ至ルヲ待テ其收支ノ云為ヲ表出スへシ即チ
 冊尾ニ附スル所ノ明治八年一月ヨリ六月ニ至ル半年
 間ノ歳入出略定表ハ其年度ノ會計ニ於テ贏餘不足ノ
 實況ヲ概見スルニ足ラン

國債増減ノ事

内國新舊公債ハ初メ宮家及ヒ舊諸藩ヨリ申報スル所
 ノ金額六千八百六拾九萬貳千九拾九圓餘ナリシニ
 明治五年已來漸次檢査訂正シテ本會計年末即チ九年
 六月三十日ニ於テ之カ証書ヲ下付スル所ノ總額ハ貳
 千三百拾壹方三千百五拾圓其他事故アリテ現金ヲ下
 付スルモノ貳拾三萬貳千四百七拾壹圓餘トス而シテ
 右証書元金ノ償還高ハ右同時限ニ至ルマテ新舊債ヲ

合シ百貳拾七万八千六百八拾圓ナリ故ニ其翌會計年
已後償却スヘキ金額ハ貳千八百八拾三万四千四百七拾
圓トス然リ而シテ舊諸藩ノ債主等既ニ公布ノ期限ヲ
失スト雖モ猶ホ百端ノ情實ヲ以テ具狀申請シ公債ノ
處分ニ頼ラントテ追願シテ已マス是ニ於テ又明治八
年十月ヲ以テ已來追願スル者アルモ之ヲ採用セサル
旨ヲ公布セリ而シテ追願セル中ニ就キ己ムヲ得サル
証跡アルニ據リ當時調査ノ上公債ノ處分ニ及ハント
スル者アリ

秩祿公債ハ家祿賞典祿奉還ノ制規ヲ設為シ其石高ニ
應シ給与スル所ノモノニシテ明治七年創舉已來九年
六月三十日ニ至ルマテ發行セシ証書金額ハ壹千六百
六拾四万壹千八百五拾圓ニシテ其元金ハ償還ノ期未

夕至ラザルヲ以テ之ヲ支消セス又別ニ現金ヲ下付ス
ル所ノ總額ハ即チ九年六月三十日ニ於テ壹千九百四
拾貳万。貳百貳拾八圓餘ノ多キニ至レリ蓋シ此ノ現
金ハ英國ヨリ借入セル所謂新公債金壹千万圓餘ヲ以
テ之ニ充テ其欠額ハ當時準備金收入中ヨリ之ヲ支給
セリ其他金札引換公債ノ如キハ本會計年間ニ於テ増
減アルナシ即チ其原額ハ貳百貳拾三万八千五百五拾
圓ニシテ本會計年末ニ於テ内債ノ未償總額ハ四千。
七拾壹万四千八百七拾圓トス

外國新舊債元金ノ合計ハ英貨三百四拾万封度ニシテ
本會計年六月ニ至ルマテ已ニ四拾九万九千三百六拾
封度ノ元金ヲ償還セリ本年間支出ノ元金ハ未夕實際
償却ヲ了セシ圓款アラスト雖
モ姑ラク之依テ其翌會計年已後償還スヘキ元金ハ貳
ヲ算入セリ

百九拾。万。六百四拾封度トス蓋シ外債ヲ償還スルノ方法タルヤ頗ル國家財政ノ利害得失ニ關スルヲ以テ苟クモ其肯綮ヲ得サレハ政府ノ損失ヲ招クハ言ヲ誤タス且内地ノ貨幣ヲ減耗スル多カラストセス是ニ於テ乎我カ省中既ニ意ヲ此ニ注キ外地貿易上ニ於テ領收スル所ノ貨幣ヲ以テ直チニ還債ノ資金ニ供セン_一ヲ務ムト雖モ未タ充分ノ地位ニ達スルヲ得ス本會計年ノ如キハ米貳拾万石ヲ輸送シ之ヲ以テ償還金ニ充テ其他別ニ金塊六万八千八百六十七石ヲ輸送ス其金塊ヲ輸送スルモノハ我カ貨幣ヲ以テ為換ヲ組ムノ不利ナルニ勝レルヲ以テナリ

以上内外債ヲ通考スルニ本會計年首ニ於テ其未償額ハ四千七百七拾八万五千五百三拾貳圓餘ナリシニ本

年度間ニ於テ各公債元金ヲ償還スルモノ若干万圓アリト雖モ亦秩祿公債等証書下付ノ順序ヲ了スルモノアリ依テ本會計年末ノ未償額ハ五千四百九拾六万九千九百九拾三圓餘ニ昇レリ而シテ本年間ニ於テ償還セシ内外債元利及ヒ内債ノ事故アリテ下付セシ現金高其他國債償還ニ類スル秩祿奉還資金ノ支出ヲ合計スルニ壹千貳百三拾万壹千。四拾。圓餘ノ多キニ至ル今其科目ノ金員ヲ概別セハ

内國債元利	二、六八九、四九九。七三
外國債元利	一、八五八、七六七。六〇。
秩祿奉還資金	七、七四二、五七〇。五一四
内債ノ現金高	一〇、二〇三、四二一

ナリトス然リ而シテ翌會計年間償還スヘキ内外債元

利ヲ概算スルニ大凡五百五拾四万壹千五百圓許ニシ
テ之ニ充ルニ奉還セシ秩祿石代ヲ以テセハ百分九十七
四、餘ヲ拂フニ足レリ是ニ據テ之ヲ觀レハ本年間ニ於
テ未償額ノ増加スルアリト雖モ翌年ニ至テハ償還金
頗ル餘裕アルヲ得テ本年ノ如キ還債上巨多ノ支出ヲ
見サルヘシ然レモ其實際ニ至テハ造幣收益及ヒ運轉
準備ノ諸益金ヲ以テ該償還金ノ大率一半ヲ補フニ非
サレハ恐ラクハ支消シ難カルヘシ何トナレハ既ニ地
租ノ改正及ヒ田賦會計由年常用歲入上幾分ノ減額ヲ生
シ經費ハ之ニ應スヘキ減額ヲ見サルノミナラス却テ
支出ノ多端ナルニ由リ常用歲入ニ屬スル奉還秩祿金
ヲ以テ悉ク還債資金ニ供スルヲ得サルハ理勢ノ應サ
ニ然ル、キ所ナリ

準備金増減ノ事

國家非常ノ挙アルニ當テ紙幣及ヒ公債証書ヲ發行シ
以テ其經費ヲ支フルハ會計ノ實際已ムヲ得サル所ナ
リ既ニ紙幣ヲ發行シ國債ヲ負擔スルニ於テハ大藏ニ
於テ之ヲ準備ヲ為シ流通紙幣及ヒ公債証書ノ價位運
用ヲ保護畫策スルハ實ニ會計上ノ要務ニシテ至重ノ
事件ナリ是ニ於テ乎明治五年敕メテ準備ノ方法ヲ設
ケ基金ヲ確定ス其新舊各種真貨ノ價額ヲ壹千壹百三
拾三万。三百圓餘トス乃チ章程ノ條款ニ遵カヒ爾來
金銀地金ヲ購入シ或ハ便宜ノ運用ヲ為シ專ラ之ヲ増
殖スルノ事ニ勉カシ本會計年未即チ九年六月三十日
ノ計算ニ據レハ其總計ハ貳千八百三拾四万壹千四百
圓餘ナリ蓋シ此ノ數年間準備増減ノ沿革及ヒ其事蹟

等千緒萬端ナリト雖モ今之ヲ喋々陳述スルモ無益ノ
贅言ニ涉ルヲ以テ之ヲ略シ偏ヘニ本會計年度中ニ就
キ其事蹟ノ槩略ヲ説明セントス
是ヨリ先キ省中已ニ準備金ヲ分類シテ三種ト為ス第
一類ハ金貨ノ本位壹千万圓ヲ金庫ニ保蓄シ臨時非常
ノ事件アルモ容易ニ之ヲ支出スヘカラサルノ不動準
備金ニシテ之ヲ増加スルモ減少スルナキヲ要スルモ
ノトス第二類ハ常ニ入出スル所ノモノニシテ金買ハ
固ヨリ定限アルナシ即チ準備ノ歳入歳出ハ一ニ皆此
ノ部分ニ属ス然レモ本會計年ノ如キハ出納ノ規程未
タ變更セサルニ由リ間々三類ニ属スル收支ノ混合ス
ルアリ第三類ハ運轉準備ト稱シ金銀地金ヲ購入シテ
貨幣ヲ鑄造シ又ハ人民ノ請求ニ依リ各公債証書ヲ買

賣シ或ハ勸業資本及ヒ銀行等へ貸与シ專ラ之ヲ活潑
運用シテ其増殖ヲ謀リ之ヲ収益ハ則チ第二類ニ送致
シ以テ國債支消其他ノ費用ニ供スルモノトス
本會計年首ニ於テ第三類準備ノ金額ハ壹千四百拾
壹万六千貳百圓餘ナリシニ本會計年末ニ迄シテハ其
額増加シテ壹千八百三拾四万壹千四百圓餘ニ至レリ
乃チ該金額ヲ以テ第三類準備ノ基金ト為ス蓋シ斯
ノ如キハ政府歳入上ニ於テ別ニ巨額ニ属スル豫算外
ノ收入アルカ如シト雖モ其實然ルニ非ス即チ從來常
用及ヒ第二類ノ管理タリシ貸出金ノ未納額并ニ支那
政府ヨリ收入セシ金貨等ヲ合シテ第三類ニ領受シ其
運轉殖益ノ便宜ヲ謀リ兼テ記簿方法ノ整頓ヲ要スル
モノナリ然リ而シテ該基金ノ本會計年末ノ計算ヲ

視ルニ其百分ノ五十二ハ貨幣及ヒ地金銀ニシテ其餘
ノ四十八ヲ以テ紙幣トス依テ運轉貸出ノ際貨幣ヲ以
テスルヨリ紙幣ノ便且利ニ如カサルニ由リ假リニ新
紙幣ヲ以テ一時運轉ノ使用ニ供シ之ニ對スル貨幣及
ヒ地金銀ヲ以テ抵當トナシ之ヲ保存セリ是レ準備金
中新紙幣借入ノ舉アル所以ナリ

抑モ準備金ナル者ハ主トシテ流通紙幣ヲ支消スルノ
用ニ擬スル所ニシテ其數ヲシテ倍々多キヲ加ヘ恰當
ノ地位ニ進マシムルハ固ヨリ平素ノ切望スル所ナリ
今試ミニ前條ノ準備金額貳千八百三拾四萬壹千四百
圓餘ヲ以テ本會計年未ノ紙幣流通高ニ比スレハ百分
ノ三十二・二三ニ居レリ又本會計年首ノ準備金額ヲ以
テ同時ノ紙幣流通高ニ比スレハ百分ノ二十五・七五ニ

居ルヲ見ル其差斯ノ如キハ他ナシ紙幣ハ消滅シテ準
備ハ漸ク増殖スルニ由テナリ然リ而シテ或ハ準備金
中紙幣ノ混在セルヲ論難スルモノアランカ詠紙幣ハ
即チ流通額ノ部内タルヲ以テ若シ之ヲ廢棄セハ則チ
紙幣ノ流通額モ亦從テ減少センノミ

紙幣ノ流通交換及ヒ製造ノ事

本會計年週尾ニ於テ各種紙幣ノ流通額ハ九千四百。
五萬四千七百三拾壹圓。六毫五厘ニシテ之ヲ八年六
月三十日ノ流通額ニ比スレハ七拾五萬。〇。八拾四圓
拾六毫五厘ヲ減少セリ抑モ紙幣ハ國債ノ一大部分ヲ
ルヲ以テ其流通ノ景況及ヒ政府會計ノ都合ニ依リ之
ヲ支消スヘキハ言ヲ誤タスト唯モ此ノ如キ巨額ノ流
通豈容易ニ之ヲ支消シ得ヘケンヤ且夫レ紙幣ノ用タ

ルヤ貨幣ノ欠乏ヲ補ヒ財路ノ融通ヲ助ケ其輕便ニ至
テハ貨幣ノ得テ及ノ所ニ非ス之ヲ要スルニ贋造ノ幣
ヲ生スルナク人々疑懼ヲ懷カスシテ信用ヲ失ハサル
ニ在リ然ルニ舊來龔用ノ藩縣旗下札ハ各其管地ニノ
ミ行ハレテ一タヒ其境ヲ出レハ忽テ利用ノ路ヲ失ヒ
又官省札ハ其製方精良ナラサルニ由リ奸民往々贋造
ノ舉アリ以テ一般ノ融通ヲ妨害スルノ景況アルニ至
レリ於是乎曩ニ廟謨一決シ別ニ一種精良ノ紙幣ヲ新
製シ藩札及ヒ官省札等ヲ交換一掃シ以テ詭二幣ヲ矯
正セント要シ其紙幣製造ノ事業ヲ以テ日耳曼國一會
社ノ手ニ委シ之ヲ製造セシメタリ其負額ハ前後兩回
ヲ合シテ壹億數百萬圓トス其之ヲ内地ニ送致シ各種
ノ記号及ヒ押印等ノ順序ヲ了シ檢査整備スル所ノ紙

幣ハ壹億。三百五拾三萬七千三百五拾九圓貳拾弍其
枚數ハ壹億八千七百六拾四萬九千七百七拾六葉ナリ
即チ之ヲ新紙幣ト稱ス然リ而シテ明治五年四月ヨリ
漸次交換ニ着手シ九年六月即チ本會計年週尾ニ至テ
舊紙幣ノ交換殘額ハ五百七拾。萬。四百。九圓五拾
六弍五厘トス其殘額ヲ悉皆交換シ以テ各種ノ舊紙幣
ハ其散逸廢滅等ノ實數ヲ確定シ全國ノ紙幣ヲシテ新
製ノ一種ニ歸シ其總額ヲ見ルニ至ルハ將廿ニ本年六
月ニ在ラントスルノ際偶々九州地方ノ騷擾ニ會シ遂
ニ其功ヲ竣ル能ハス延テ明年六月ヲ以テ其期トセリ
ル可ラサルノ情勢ニ馴致セリ
又顧ミテ紙幣流通ノ景況ヲ察スルニ明治元年以來數
年間ハ紙幣ヲ贋造スル者漸次夥多ニシテ其詐欺ニ陷

リ損害ヲ受ル者前後相踵キ之カ為メ大ニ一般ノ流通
ヲ梗塞セリ然ルニ新紙幣ヲ發行スルニ道ンテ未タ嘗
テ之ヲ贋造スルモノアラズ只僅カニ奇零札ノ数字ヲ
改描スルニ止マリ敢テ贋造偽製ト云フニ至ラズ是ヲ
以テ人民疑懼ノ念慮ヲ談紙幣ニ望ムルナク大ニ流通
ノ便宜ヲ得タリ此レ曩ニ新紙幣製造ノ議ヲ起スニ當
テ豫メ偽造ノ襲弊ヲ矯正セントスルノ前言ニ違ハス
果シテ其結果ヲ見ルニ至ルハ實ニ國家ノ幸福ト云フ
ヘシ然リ而シテ此ニ一得アレハ又一失ヲ生スルナキ
能ハス蓋シ新紙幣ノ製タルヤ其實脆弱ニシテ耐久ノ
力ナク隨テ發行スレハ隨テ破壊スルノ患アリ是ニ於
テ明治七年五月議ヲ献シ工場ヲ建設シ以テ豫備札製
造ノ拳ヲ請ヒ允裁ヲ得タリ依テ含密雕刻印刷等ノ技

術ニ長スルモノヲ内外國ニ傭聘シ印肉ニ於テハ秘訣
肉ヲ發明シ雕刻ニ於テハ精妙ノ技ニ通シ印刷ニ於テ
ハ凹凸両版ヲ刷スヘシ殊ニ鈔紙ノ如キハ堅韌ニシテ
耐久ノ力ヲ有スル一種ノ良好質ヲ製シ得ルニ至レリ
尋テ工場已ニ竣功シ器械已ニ整備シ技術士モ亦來集
ス
此ノ時ニ當テ又新紙幣大交換ノ議ヲ奏ス其然ル所以
ノ要旨ヲ概言スレハ從來新紙幣ナルモノハ前條陳述
セルカ如ク其紙質太ハタ脆弱ニシテ耐久ノ力ニ乏シ
キヲ以テ其發行已來未タ數年ナラサルニ破壊ノ為メ
已ニ交換ニ付スルモノ陸續断ヘス斯ノ如キハ將來星
霜ヲ經ルニ從ヒ其破壊スルヤ月ニ増シ歲ニ加ハルハ
其掌ヲ指スカ如シ其勢ニ遂ニ豫備札製造ノ事業ニ汲

汲タルニ非サレハ之ヲ支フ可ラサルカ如シ其弊モ亦
太甚タレト云フヘシ且該紙幣ノ製タル雕鏤殊ニ緻密
ニ過キ僻隙未開ノ人民ニ至テハ其雕紋ノ何物タルヲ
辨識スル能ハス却テ詐偽ノ術ニ陷ルモノナシト云ヒ
難シ於是乎奏議ニ遵カヒ不日將サニ紙幣改造ノ事業
ニ着手スル所アラントス然リ而シテ偶々金祿公債証
書及ヒ銀行條例改正以來銀行紙幣ノ製造多事ナルヲ
以テ方今姑ク改造ノ事務ヲ緩過スルハ亦己ハヲ得サ
ル所ナリ

貨幣鑄造ノ事

貨幣鑄造ノ事蹟ヲ概言スレハ明治三年十一月ヨリ同
九年六月ニ至ル迄鑄造スル所ノ金銀銅貨總額ハ六千
九百六拾万圓餘ニシテ其種類ハ貳拾圓拾圓五圓貳圓

壹圓ノ金貨ヲ以テ本位トナシ五拾錢貳拾錢拾錢五錢
ノ銀貨ヲ以テ補助トナシ銅貨モ亦之ニ属ス特ニ一種
ノ貿易銀ヲ鑄造シ以テ大ニ海外貿易ノ便益ヲ資興セ
ントス
是ヨリ先キ造幣寮創設ノ際銀貨ヲ以テ本位トナスノ
議ニ決ヒリ既ニシテ之ヲ熟考スルニ銀貨ヲ以テ本位
トナサハ或ハ貨幣ノ實理ヲ失ヒ流通ノ際多少ノ不便
ヲ生セントヲ恐ル乃テ廣ク歐米各國ノ貨幣制度并本
位補助ノ比較等ヲ考覈質問シ更ニ各國貨幣ノ秤量ヲ
參考折衷シ改メテ金貨ヲ以テ本位ト定メ前議本位ヲ
リシ壹圓銀ハ之ヲ轉シテ貿易銀トナシ五拾錢已下ノ
銀銅貨ハ補助タルニ由リ其受授ノ制限ヲ設ケ終ニ貨
幣條例ヲ頒布セラル、ニ及ヘリ尔來本年迄造幣ノ事

蹟ニ就テハ金銀銅貨ノ沿革及ヒ其鑄造ノ緩急等各種
同一ナラス今茲ニ一二ノ主眼タルモノヲ説明シ以テ
我々造幣工業ノ景況ヲ開申セントス
金貨ノ鑄造タル明治四年六月ヨリ内外人民ノ要需ニ
應スルニ當テ其之ヲ乞フ者甚ク多シ然ルニ器械乏少
ニシテ其需メニ應スルヤ實ニ難シ依テ翌五年六月ニ
至リ一時暫ク内外人ノ金地金ヲ送致スルヲ謝絶シ
大ニ新器械ヲ増置シ十月ニ至テ再々ヒ内外人ノ地金
ヲ領受スルニ及ヘリ是ヨリ事業盛大ニシテ鑄造スル
所ノ員數ハ之ヲ舊前ニ比スレハ幾ント倍蓰スルニ至
ル然リ而シテ當時内外人民ノ銀地金ヲ送致スルモ尚
ホ金一銀十六ノ比準ヲ以テ金貨ヲ付与スルノ規則存
在シ殊ニ金地金ノ送入多カラス之ニ加フルニ銀價ノ

低落スルヲ以テ政府ノ損失將ニ多キニ至ラントス是
ニ於テ六年十二月ヲ以テ右規則ヲ釐革シ己後銀地金
ヲ送致スルトキハ壹圓銀ヲ交付スヘキノ成規ニ改定
セリ

七年ニ至テ金貨ノ鑄造著シク減少セリ蓋シ當時為替
相場ノ景況ニ依レハ金貨ノ運用ヲ得サルニ由リ之ヲ
鑄造スルモ利ナラス且人民ノ要需スル所モ亦略ホ充
盈シ其鑄造發行高ヲ以テ全國ノ人口ニ比準セハ其平
均ハ凡ソ壹圓半許ニ至レリ此時ニ當テ己ニ金貨輸出
ノ弊ヲ生スル少クナラス民間ニ於テハ舊金銀ヲ匿藏
シ或ハ之ヲ海外ニ發輸スルノ勢ニ至ル於是乎内國ノ
流通大ニ減少シ或ハ古金ノ地ヲ拂テ蕩尽セントテ恐
レ同年九月令ヲ請フテ舊貨幣價格比較表ヲ頒布シ人

民交五ノ受授ヲ廢止シ之ヲ新貨ト交換シ或ハ之ヲ租
稅ノ納額ニ充テシム尋テ又造幣規則ヲ改正シ從來造
幣ノ為メ受領スル金地金ハ百五拾ヲンス以上ナルヲ
減シテ五拾ヲンス已上トナセリ是ニ於テ金貨ノ鑄造
ハ稍々其量類ヲ増加スト惟モ當時ノ狀勢ヲ察スルニ
金貨ヲ鑄造スルモ其不利ナルヲ以テ政府ノ金地金ハ
各國金銀精製局ノ模形ニ倣ヒ一種ノ鑄型ヲ製シテ金
塊ヲ鑄造セシムルニ至レリ其他人民ノ要需スルトキ
ハ專ラ五圓ノ一種ヲ鑄造ス蓋シ五圓金ハ大小ノ中位
ヲ占メ頗ル使用ニ便ナルヲ以テナリ

銀貨ノ鑄造モ亦同シク明治四年六月己未内外人民ノ
求需ニ應ス此ノ時ニ當テ銀地金ヲ送致シ以テ鑄造ヲ
乞フ者金貨ノ鑄造ヲ乞フ者ヨリ衆多ニシテ容易ニ其

要望ニ應スル能ハサルニ至ル蓋シ開業己未日猶ホ淺
ク之ニ加フルニ當時洋銀ノ價位甚タ低下セルニ由レ
リ故ニ鑄造ノ時間ヲ伸長シ攷々トシテ勉勵從事スト
雖モ奈何セン機械ノ運轉力自ラ限リアリ以テ人民ヲ
シテ滿意セシムルニ足ラサルヲ此ノ如キハ終ニ人民
改鑄ノ念ヲ絶テ且機械ヲ毀損スルニ至ランヲ恐レ
己ムヲ得ス同年十月ニ至リ一時人民ノ地金送致ヲ謝
絶シ單ニ新機械ヲ増設スルノ事業ニ着手シ尋テ其功
ヲ竣リ大ニ工場ノ便ヲ得タリ蓋シ創業ヨリ此時ニ至
ルニ鑄造スル所ノ銀貨ハ專ラ貿易壹圓銀ヲ主トス然
レ熱々民間財路ノ景況ヲ察スルニ補助銀貨ノ發行多
カラサレハ融通ニ於テ不便ナラント思惟シ五年三月
己未特ニ補助貨ノ鑄造ニノミ從事シ以テ内地ノ流通

ニ充テント要セリ然リ而シテ其鑄造ノ額未タ多カラ
ナルニ頗ル收益ノ大ナルヲ見ルニ至ル此ノ如キハ政
府ニ於テ大ニ得益アリト雖モ将来或ハ内外人民ノ此
ニ注目シ價位秤量ノ相適セサルヲ認メ終ニ流通ノ障
碍ヲ生シ從テ信憑ヲ失フニ至ラントテ恐ル依テ五年
十一月令ヲ請フテ秤量ヲ増加シ尋テ又其体面ヲ改良
シ表面ニ横文ヲ以テ價位ヲ記シ外國人ノ識認ヲ便ニ
シ以テ頗リニ補助貨鑄造ノ事ニ從ハシム然ルニ此時
ニ當テ又舊藩札交換ノ期ニ際シ小貨幣ヲ要スル其額
頗ル夥多ナリ是ヲ以テ七年一月更ニ詠局ニ令シテ大
ニ之ヲ鑄造セシム其種類ハ拾弋五弋ヲ主トシ之ニ兼
ヌルニ各種ノ銅貨ヲ以テス故ニ成貨ノ金額ハ甚タ多
カラスト雖モ其工事ニ鞅掌スル是レ日モ足ラス故ニ

往々其時間ヲ伸長スルニ至レリ

七年三月ニ至リ漸ク内外人民ノ銀地金ヲ受領シ復タ
貿易壹圓銀ノ鑄造ヲ盛大ナラシメントスルヲ得タリ
此際詠貨幣ノ体面ヲ改正シ横文ヲ以テ其品位秤量價
格ヲ詳明雕鑄シ内外人民ノ識認ニ便セリ初メ詠貨幣
ヲ鑄造スルノ要旨ハ夥シク之ヲ發行シ暗ニ墨是哥ト
ルヲルト般價ヲ頡頏セシメ以テ大ニ宏益ヲ興サント
スルニ在リ是故ニ獨リ我カ開港場ノミナラス己ニ海
外ニ流通シ中ニ就テ支那埠頭廣東福州及ヒ新嘉坡ノ
如キハ米國貿易銀及ヒ墨是哥トルヲ等ト同シク通
用貨幣タルニ至レリ然リ而シテ米國貿易銀ノ秤量ハ
四百貳拾六ニシテ我カ貿易壹圓銀ハ四百拾六ニナル
ニ由リ之カ為メ海外流通ノ艱澁セントテ慮リ八年二

月ヲ以テ其秤量ヲ増加シ四百貳拾以下ナシ更ニ其銘
ヲ改メテ貿易銀トナス是ヨリ已來内外人送致スル所
ノ銀地金ハ總テ改正貿易銀ヲ鑄造シ以テ付与スヘキ
ヲ令シ併セテ鑄造料ヲ減スルノ旨ヲ公示セリ（從前百
付一、半トセリ）

以上縷述スル所ノモノハ當ニ我カ造幣事蹟ノ大要ヲ
挙クル而已其詳細ノ若キハ該寮年報書ニ具状セルヲ
以テ今復々此ニ贅セス請フ旨趣ヲ轉シ將來着意スヘ
キノ要點ニ就テ開陳セントス夫レ輒近字内各國貨幣
ノ實況ヲ窺フニ銀價ノ頗ル低下セルニ由リ夫ノ金貨
ヲ以テ本位トナシ特ニ殷富ノ名アル英國ニ於テモ其
所領印度地方貿易ノ為メニ金銀兩種ヲ以テ本位トナ
スノ便宜ニ如カサルノ議ヲ主張スルモノアリ又米國

ニ於テモ金銀兩本位ノ説ヲ唱フルノミナラズ嚮キニ已
ニ貿易銀ヲ鑄造シテ益々東洋地方貿易ノ利權ヲ占有
セントスルノ事ニ從ヘリ此時ニ當テ我カ貿易銀ノ如
キモ前段陳述セルカ如ク東洋各埠頭ニ於テ既ニ墨銀
及ヒ米貿易銀ト其班位ヲ同シフシテ通用貨幣タルニ
至レリ又近時支那地方ニ於テ我カ補助貨ヲ需用スル
漸次夥多ナルヲ見ル是ニ由テ之ヲ考フルニ將來專ラ
貿易銀ヲ鑄造シ大ニ之ヲ東洋各國ニ發行シ之ニ亞ク
ニ補助銀貨ヲ以テシ而シテ從來地位ヲ占有セル墨銀
及ヒ米銀ト相抗シ我カ銀貨ヲシテ益々増々信憑ト利
權トヲ得セシムルノ事ニ黽勉着手スルヲ以テ緊要ノ
目的トス夫ノ金銀本位ノ利害得失ニ至テハ我邦目下
改正ヲ要スルノ急務ニ非サルヲ以テ姑ラク之ヲ措テ

論セサルナリ

輸出入貿易ノ事

内外貿易ハ利源流暢ノ一大部分ニシテ國家理財ノ要途ニ關スルヲ以テ其事蹟ヲ詳明歴叙セサル可ラス蓋シ其景況ヲ開陳セント欲セハ前後對照比較スルニ非サレハ其盛衰増減等ヲ了知スヘカラサルナリ然リ而シテ本年ノ如キハ會計年度ノ創設タルヲ以テ之ヲ對照スヘキ年度ナク真ノ比較ヲ見ルニ由ナシ故ニ姑ク曆年タル明治七年ニ就テ對照ス但シ其實ニ至テハ些少ノ差異ナキヲ得サルヘシト雖モ亦貿易ノ大体ヲ見ルニ足ラントス

本會計年間各港輸出入物品原價ノ合計ハ四千三百拾七萬貳千四百。貳圓餘ニシテ前年ヨリ増加スル一

分ノ三、半許ナリ然レモ今入出ノ各一方ニ就テ其盛衰ヲ驗スレハ輸出ノ總計ハ壹千八百。七萬七千六百六拾圓餘ニシテ前年ヨリ減少スル一百分ノ四、ニ居リ又其輸入總計ハ貳千五百。九萬四千七百四拾貳圓餘ニシテ前年ヨリ増加スル一百分ノ九、半ニ居レリ此ノ如キハ出入ノ平均ヲ得サル一前年ニ比スレハ更ニ甚タシト云フヘシ然リト雖モ顧ミテ貨幣ノ入出ヲ看レハ輸出ノ前年ヨリ減少スル一百分ノ十、半ニシテ輸入ノ前年ヨリ増加スル一百分ノ五、十二ニ居レリ今茲ニ輸出入物品ノ巨價ナルモノヲ掲ケ次ニ其増減及ビ收税ノ多寡并ニ貨幣ノ入出等ヲ對照シ以テ貿易ノ盛衰ヲ表出スル一左ノ如シ

輸出ノ部

輸入ノ部

樟腦	樟腦	一八〇七八〇	時計	時計	二八七三九一
人參	人參	一九四九九六	食料	食料	二二五四二八
石炭	石炭	二一三四〇七	酒類	酒類	三二四六〇五
銅鑄	銅鑄	三八二六九五	藥種製藥	藥種製藥	三八五三二四
寒天	寒天	三〇七七五四	石炭油及諸油	石炭油及諸油	五九一、二八七
椎茸	椎茸	三三四三五四	船舶	船舶	六八一、五三五
米穀	米穀	三六五七五六	熟鏡類	熟鏡類	七二六、六八〇
昆布	昆布	四〇八五六四	砂糖	砂糖	三、二二五、九五六
乾魚貝類	乾魚貝類	八一、二四五六	木綿織物	木綿織物	一、三四三、八六五
繭真綿	繭真綿	二九八、五四八	諸金巾	諸金巾	二、五八〇、三三〇
蚕卵紙	蚕卵紙	四七四、九二〇	木綿絲	木綿絲	三、三五五、六二〇
生絲	生絲	五、三一四、二三五	羅紗其他毛製品	羅紗其他毛製品	九〇九、一六四
茶	茶	六、七二八、九一四	縮緬吳呂其他吳呂類	縮緬吳呂其他吳呂類	四〇八、五六七

蠟	蠟	一七八〇五〇	更紗	更紗	二五一、三四三
扇子	扇子	一三七、二六三	熟皮	熟皮	二一五、八〇三
漆器	漆器	一二三、六七九	傘	傘	二一五、〇七二
陶器	陶器	一〇三、一三四	器械類	器械類	二一二、三二三
煙草	煙草	九九、三九三	紅花	紅花	二〇一、五五〇
藥種	藥種	九四、五二九	フランケット	フランケット	一八三、九五七
材木	材木	八四、二六〇	寒冷紗	寒冷紗	一六五、五六六
紙	紙	四七、七一〇	絹及木綿織物支那製	絹及木綿織物支那製	一六三、四一〇
絹及木綿織物	絹及木綿織物	三四、七一七	米穀	米穀	一七九、二六〇
			紙	紙	一五二、八九六
			文具	文具	一三三、四四九
			繅綿	繅綿	一〇九、一八五
			染料	染料	一〇五、四九五

硝子	一五七、二九四
朱	一〇、一六九、四
石炭	一四九、一二、四
茶鉛及茶席	一七三、五六、四
附木	七六、四四、四
珊瑚	七六、四三、七四
鼈甲	六〇、二九九、四
兵器火藥	五六、九九、四
水銀	五〇、九一、四

右等貿易品ノ巨價ナルモノニ就キ之ヲ觀レハ亦以テ
 通商ノ概況ヲ了知スルニ足レリ依テ又右物品ノ輸出
 入ヲ以テ明治七年ノ輸出入ニ比較シ其増減ヲ表出ス
 ルヲ左ノ如シ

輸 出 部

本會計年分增加額	四兆	本會計年分減少額	四兆
寒天	一七三、五一、一	茶	五二四、四九、七九一
椎茸	一二〇、二四九、二、七	生絲	一八〇、二六九、七二、〇
昆布	一一〇、七四八、九三九	繭真綿	七七、一七六、二五、〇
石炭	六六、五二二、二八六	蚕卵紙	二五六、六五七、二五三
扇子	四六、二八六、八一七	銅鐺	二九一、七八二、四五六
材木	三六、五三、〇九七	漆器	九九、五二一、一六一
樟腦	二五、二三、七六、〇	陶器	五、五四、〇五、四
絹及木綿織物	一〇、三二四、一六、〇	煙草	一七四、六七、一七六、五
船用品	三〇、二五三、五、一八六	蠟	五九、五八九、〇三八
藥品	一九、〇六一、五、六、五七	人參	二六、〇九、〇四、二三
		米穀	四七、〇六三、三五、六

六 義 箱

合計 一、八二、五五四四。六
 差引減少實額

輸 入 部

本會計年分增加額	本會計年分減少額
縮緬吳呂其他吳呂類 一、三八二、四五七一。六	木綿絲 二二〇、五六四二。三
羅紗其他毛製品 五三三、五二八六。六	諸金巾 一、五七六、八七六。七
砂糖 五五三、七四六。七	木綿織物 六、八四〇。一
石炭油及諸油 一九七、六七七。〇	熟鏡類 二、〇六〇。六
藥種製藥 八六、八七七。一	熟皮 二二、五九五。四
酒類 三、六一六。一	器械類 三、七五九。二

乾魚貝類 三五、四一一。四
 藥種 六、六六六。一
 紙 四、三三二。一
 合計 一、七八四、九七二。六

七、〇二、四一八。三

食料	一三、二三三。三	綠綿	九八二、二六一。五
時計	二六、九〇二。九	鼈甲	一三、四六五。八
更紗	一四六、八三五。七		
傘	三一、〇六七。六		
紅花	一、二八五。七		
フランケツト	一、〇六二。九		
寒冷紗	一、二二〇。九		
絹及木綿織物支那製	七三、五九七。三		
米穀	九五、八四〇。一		
紙	六〇、四五七。四		
文具	四七、五四四。七		
染料	一、二九九。五		
硝子	四八、三八一。〇		

朱	一一、六六五、三三五	
石炭	五〇、五六〇、一六四	
茶鈿及茶蓆	六六、〇五七、五六五	
附木	四九、〇一四、八一七	
珊瑚	三八、九〇九、八五一	
兵器火藥	三七、二五八、六六三	
水銀	二一、五〇一、三二五	
雜品	一、三八六、三六六	
合計	五、二二六、四一一	九九九
合計	三、〇六六、二五七、〇四	二、一七〇、一五四、九五

差引増加實額

此他輸出ノ船用品輸入ノ官用品等アリテ前後排此
 較之各キ巨價ノ入出品等ノナキニ非スト雖モ此等ハ
 都テ雜品總計中同知算只其増減表ニテ表出ス夫ノ

精細ヲ要スルカ若キハ関稅局調理ノ各港輸出入表ア
 ルヲ以テ復タ此ニ贅セス

收稅及ヒ貨幣ノ入出

本年度中輸出稅	七、〇九、四七七	三四七
七年中 輸出稅	六七六、三三五	九九七六
本年度分増加	三三、一四一	三七一
本年度中輸入稅	一、〇〇、九四一	八二一
七年中 輸入稅	九〇、八五四	三四九
本年度分増加	一〇〇、八七五	三七二
本年度中輸出貨幣	一二、五二四、〇二四	五一九
七年中 輸出貨幣	一三、九九五、二〇二	〇九三
本年度分減少	一、四七一、一七七	五七四
本年度中輸入貨幣	一、六三四、二八九	二七八

同義

七年中 輸入貨幣

本年度分増加

一、〇七一、七三〇 五四一
五六二、五五八 七三七

已上掲載スル所ノ條款ニ就テ物品比較ノ計數ヲ視ルニ輸出ハ概シテ減少スルモノ多シト雖モ其收稅額ニ至テハ七年ヨリ増加スルノ百分ノ五許ニ居レリ故ニ輸出金額ハ減少スト雖モ其物品ノ量數ハ増加セシヲ了知スルニ足ルヘシ試ミニ輸出ノ主眼タル茶生絲ノ二品ニ就テ之ヲ比算スルニ茶ノ量數ハ七年ヨリ増加スルノ百分ノ十四ニシテ生絲ハ百分ノ十六ナリ輸入物品ハ七年ヨリ増加スルモノ甚タ多シ故ニ其收稅額ノ増加スルハ論無シト雖モ輸入増額ハ百分ノ九半ニ居リ該收稅ノ増加ハ十一餘ニ至ルヲ見ル此ノ如キモノハ從來無稅タリシ官用品等ノ本年度ニ至リ其

稅ヲ征スルノ致ス所ナリ然リ而シテ貨幣ノ景況ヲ視ルニ輸出ハ七年ヨリ減少シテ輸入ハ増加セリ蓋シ此件ニ於テハ幾多ノ原因アルヘシト雖モ之ヲ概言セハ主トシテ輸入品ノ市價低下セルヨリ生スルモノ乎

以下数字号ノ計表アリト云々今其中ニ就キ主要タル本會計年度歳入出表ノ数字ヲ附シテ電覽ニ供ス

第壹號

明治八年七月一日ヨリ全九年六月三十日ニ至
ル會計年間常用甲乙部及ニ準備ノ歳入内譯現
計表

海關稅	地稅	官祿稅	家祿稅	酒類稅	煙草稅	証券印紙諸稅	郵便稅	訴訟罪紙諸稅	蚕種紙印紙稅	生絲印紙稅	船稅	車稅
一、七四〇、六七二、七六九	五六〇、二八、三一、二四九〇	九三、七九四〇、三四	二、五〇四、二二一、三九四	二、二一五、二五二、九七三	一、六九七、七四七、一一七	五、三四七、七七九、八八五	五、一三三、三六三、四九三	四、六三、三一八、三三九	一、三一、六二二、九一六	二、二、八七八、八九六	一、二六、五八五、一七四	一、九〇、六三九、一七六

同表

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

大
痛
水

銃	獵	稅	四九七。一四九八
錠	泊	稅	五七、三八六三。〇
牛馬賣買免許稅			八四、五六。五〇。〇
開市港場稅			二、四八九七。四五
賦課各種ノ收入			一四〇、七一五。三五
雜			一二八、五五八。五二
鑛山	收	入	三四八、六二八。五三
汽車	收	入	七八二、〇二三。四一七
電信	收	入	一七三、五三八。三七七
製作其他官工收入			二八五、九四六。一九九
琉球藩貢納			六一、七四四。六八八
支那政府ノリ收入			六三二、一二〇。六四〇
諸貸金返納			二、七六三、〇〇三。五五七
造幣ニ關スル收入			一、六九九、〇二〇。七三九
地所及諸貸下料其外			四三八、〇四七。九二
土地木石其外不用品拂代			一、四七六、〇三九。九八七
石高拜借返納			一三三、〇九一。一七七

舊藩貸付返納			四一八、六四六。五七
貸金利息			二二一、〇六五。七九六
諸延納			三、五二九、九三二。五九五
諸費過渡及遣拂殘			六、四三一、九八七。一七五
雜收入			二、三二八、六八四。九三七
歲入通計			八六、五〇五、一二一。二一六
八年七月一日越高			二八、六八二、五二五。三五二
總計			一一五、一八七、六四六。五六八

第貳號

明治八年七月一日ヨリ同九年六月三十日ニ至ル
會計年間常用甲乙部及ニ準備ノ歳出内譯現計表

地租	改正局	宮内省	司法省	工部省	教部省	文部省	海軍省	陸軍省	大藏省	内務省	外務省	元老院	太政官
四九〇五〇	九一八〇六	一七四四二	四三八五二	六九九八三	一六八〇九	二九〇六二	六九四六二	一、二九四、二二八	二、二四五、二六九	一六二〇〇	一九九、九四〇	四五二、一九三	四、五二、一九三
九七七	一三〇	八四七	五七〇	二八二	四七七五	八六八	七九七	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

四
五

汽 船 掛 渡	軍 艦 買 上 等 為 海 軍 省 渡	兵 器 買 上 等 為 陸 軍 省 渡	博 覽 會	家 祿	賞 祿	外 國 債 元 利	內 國 債 元 利	在 外 公 使 領 事 館	堤 防	營 繕	神 社 費	警 察 費	諸 縣	三 府	警 視 廳	開 拓 使
四 九 四 〇 五 六 九 九 七	五 一 六 五 五 二 九 五 〇	三 二 〇 六 〇 五 六 一 六 九	二 七 六 九 七 三 四 二 四	一 九 二 〇 八 一 七 二 八 八 一	一 三 八 九 九 六 九 一 一 〇	一 四 一 三 六 〇 九 一 一 〇	二 七 二 九 七 八 七 一 六 〇	五 〇 五 三 七 〇 四 九 二	一 二 五 五 〇 一 四 八 四 六	三 五 五 五 七 二 四 六 五	二 一 六 五 五 〇 六 〇 五	六 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	四 〇 九 八 五 〇 七 四 九	五 〇 九 四 五 三 二 六 二	一 〇 六 八 六 七 二 〇 九	一 四 七 七 六 二 八 六 三 三

秩 祿 奉 還 賜 金	造 幣 寮 及 金 銀 精 製 費	三 菱 及 為 智 會 社 貸 金	運 轉 貸 出	諸 貸 出	齋 諸 費	過 誤 納 下 戾	臨 時 雜 件 費	歲 出 通 計	假 出 過 額	九 年 六 月 三 十 日 殘 贏 金	總 計
七 七 五 〇 〇 〇	三 二 七 五 一 一 九 〇	一 一 一 六 〇 〇 六 六 七	二 八 二 二 六 二 〇 六 四 〇	一 八 六 八 六 五 八 〇 七 五	二 五 三 四 四 七 四 九 四 五	四 六 四 九 四 九 四 〇	三 七 五 八 五 一 八 八 五 四	八 六 六 二 七 八 六 六 〇 七 五	五 〇 四 三 四 二 四 一 〇 七	二 三 五 一 六 三 五 六 三 八 六	一 一 五 一 八 七 六 四 六 五 六 八

第三節

明治八年七月一日ヨリ九年六月三十日ニ至ル
會計一週年間乙亥甲部ニ於テ傳票ヲ以テ收支
セシ金額内譯現計表

		歳入	部	円	銭
海關	稅	一、五六八、四〇三		四一	
地稅		四六、六〇二、七八七		九五	四
官祿	稅	七五、一八九		八三	一
家祿	稅	三五三、〇二四		八四	二
酒類	稅	一、二〇五、四五九		六五	
煙草	稅	一六九、七四七		一七	
証券	稅	四一九、三二四		二七	四
郵便	稅	一六九、九二八		五二	二
訴訟	稅	四六、三三八		三三	九
蚕種紙印紙	稅	一〇六、二一四		七四	〇
生絲繭真綿印紙	稅	二一、七七〇		一四	六
生絲賣買鑑札料		一、一〇八		七五	〇

校正
落合

元	外	內	大	陸	海	父	教	工	司	宮	地	開	警	三	諸	警
老	務	務	藏	軍	軍	部	部	部	部	內	改	拓	視			
院	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	局	使	廳	府	縣
一	一	二	一	六	二	一	四	一	一	八	一	一	一	一	三	六
九	二	二	一	九	七	六	三	八	一	九	七	四	五	五	五	五
九	四	四	二	四	九	九	九	五	二	八	九	八	二	七	七	九
四	〇	九	二	六	〇	〇	七	二	二	二	〇	〇	〇	三	〇	〇
〇	〇	七	八	七	〇	〇	〇	七	八	二	〇	〇	〇	三	〇	〇
〇	〇	六	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	九	〇	〇
〇	〇	七	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五	〇	〇
〇	〇	七	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五	〇	〇
〇	〇	七	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五	〇	〇

大	假	雜	貨	製	電	汽	鑛	開	礎	牛	銃	車	船
政	入	收	會	作	信	車	山	市	泊	馬	獵	稅	稅
官	總	入	返	其	收	收	收	場	稅	賣	稅	稅	稅
	計	納	入	他	入	入	入	稅	稅	免	稅	稅	稅
	額	入	入	官	入	入	入	稅	稅	許	稅	稅	稅
	計	入	入	工	入	入	入	稅	稅	稅	稅	稅	稅
	計	入	入	收	入	入	入	稅	稅	稅	稅	稅	稅
出	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
四	六	五	二	一	三	七	七	二	二	八	四	一	二
五	一	八	二	二	八	二	九	四	六	五	五	二	六
二	九	〇	二	六	八	七	七	二	六	五	一	三	五
一	四	七	八	二	〇	二	二	八	九	二	五	一	八
九	二	〇	〇	六	〇	六	七	九	五	五	〇	二	九
三	八	〇	三	二	二	三	二	六	二	五	〇	一	四
八	〇	七	二	二	六	七	二	五	五	〇	〇	〇	〇
〇	五	四	八	二	二	二	二	四	二	〇	〇	〇	〇
〇	二	〇	〇	六	〇	〇	〇	八	五	〇	〇	〇	〇
〇	八	〇	〇	二	〇	〇	〇	三	二	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	〇	七	二	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	七	〇	〇	〇	九	四	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	〇	三	六	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五	四	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四	三	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五	四	〇	〇	〇	〇

第四號

收目		歲入	部
海關稅	海關稅	一七二、二六九	四七二八
地稅	地稅	九、四二五、五二四	五三六
官稅	官稅	一八六、〇四二	二〇三
家稅	家稅	二、一五一、一九六	五五二
酒類稅	酒類稅	一、〇〇九、七九三	九〇八
証券印紙諸稅	証券印紙諸稅	一、一五、四五五	六一一
郵便紙印紙稅	郵便紙印紙稅	三四三、四三四	九七一
蚕種紙印紙稅	蚕種紙印紙稅	二五、四〇八	一七六
車稅	車稅	九六、四〇七	九五七
銃獵稅	銃獵稅	四、五七六	四九八
碇泊稅	碇泊稅	三〇、八六一	〇四六

明治八年七月一日ヨリ九年六月三十日ニ至ル
 會計一週年間乙亥乙部ニ於テ傳票ヲ以テ收支
 七シ金額内譯現計表

校正

神社費	一九八、四〇二	二一四
營繕費	一七〇、〇〇〇	〇〇〇
堤防	一、二〇〇、〇〇〇	〇〇〇
賞典	一、〇九六、九〇〇	五〇〇
家祿	一、三六三、一九〇	八七二七
在外公使領事館	五〇、五三七	四九二
米國博覽會	二五一、九七一	〇八七
諸貨出費	一、三二四、五二〇	〇七七
臨時費	二、七〇九、〇四七	八五五
奉還祿準備、繰入	三〇、三〇四	〇八一
通計	五〇、五二〇、三〇六	六四八
九年六月三十日殘贏金	一〇、七〇七、七三一	七八八
總計	六一、二二八、〇三八	四三六

綾 油	稅	七二八 八七一
襪	稅	一二七 八二九
賦課各種ノ收入		一四〇 七一五
琉球藩貢納		六一 七〇四
御用度ノ軍資及皇城造營獻金		二一 四三四
支那政府ヨリ收入		六三二 一一二〇
諸返納		五五九 九八四
雜收入		一〇 七八七
過渡及諸費遺拂殘		二四二 四七五
歳入通計		一七九 三九五
八年七月一日越高		一一〇 〇八二
總計		二八九 四八二
費目	歳出ノ部	額
海軍省		二〇六 二〇四
教育部		一八七 〇
宮内省		一二九 一三九
地租改正局		一〇五 〇
開拓使		二七七 六一三
警視廳		一五九 三三八
三府廳		九一五 八六七
諸縣		一八八 一四七
神戶		一九三 四一〇
營繕費		五五〇 一四八
堤防		二九二 九九八
賞典		五五七 六二六
家祿		二五〇 〇二
博覽會		三八六 一九二
雜費		三二〇 五六一
兵器買上		五一六 五九二
軍艦買上		四九四 五六九
汽船掛渡		四三〇 六七三
國債支消ノ為準備ノ挿入		三〇一 六〇七
奉還祿準備ノ挿入		六二九 〇

綾 油	稅	七二八 八七一
襪	稅	一二七 八二九
賦課各種ノ收入		一四〇 七一五
琉球藩貢納		六一 七〇四
御用度ノ軍資及皇城造營獻金		二一 四三四
支那政府ヨリ收入		六三二 一一二〇
諸返納		五五九 九八四
雜收入		一〇 七八七
過渡及諸費遺拂殘		二四二 四七五
歳入通計		一七九 三九五
八年七月一日越高		一一〇 〇八二
總計		二八九 四八二
費目	歳出ノ部	額
海軍省		二〇六 二〇四
教育部		一八七 〇
宮内省		一二九 一三九
地租改正局		一〇五 〇
開拓使		二七七 六一三
警視廳		一五九 三三八
三府廳		九一五 八六七
諸縣		一八八 一四七
神戶		一九三 四一〇
營繕費		五五〇 一四八
堤防		二九二 九九八
賞典		五五七 六二六
家祿		二五〇 〇二
博覽會		三八六 一九二
雜費		三二〇 五六一
兵器買上		五一六 五九二
軍艦買上		四九四 五六九
汽船掛渡		四三〇 六七三
國債支消ノ為準備ノ挿入		三〇一 六〇七
奉還祿準備ノ挿入		六二九 〇

第五號

明治八年七月一日ヨリ全九年六月三十日ニ至ル會計一周年間傳票ヲ以テ收支セシ準備金額内譯現計表

收目	歳入	部	額	田	差
造幣ニ關スル收入			一、六九九、〇二〇	七三九	
官地貸下料其外			一〇〇、六八四	〇四四	
諸貸下料其外			三三七、三六三	〇四八	
土地木石其外拂代			一〇二、二〇五	九七七	九
不用品拂代			四五三、九八〇	二〇八	
運轉貸金返納			一九八、六三九	五一一	
救助貸金返納			一九五、九八一	五七三	
雜貸金返納			四一八、一〇八	四四	
貸金利子			二二一、〇六五	七九六	
石高拜借返納			一三三、〇九一	一七七	
舊藩貸付返納			四一八、六四六	〇五七	

テール銀準備、挿入	七二五、二一〇	四一一
皇城造管別口金國債察、送移	二六一、三〇二	二一八
諸貸渡	三三五、四四九	二一二
過誤納下	五三、四七七	九六四
通計	一八、三八九、六五二	四〇六
假出重複及交換ノ差	九、四八〇、六一八	九一六
合計	二七、八七〇、二七一	三二二
九年六月三十日殘贏金	一〇、七五、五五五	五四〇
總計	二八、九四五、八二六	八六二

東京府下煉化屋建築費繰替返納	五、一、七、五、九	九、六、五
諸 延 納	三、五、二、九、九	三、二、五、九、五
鑛 山 延 納	二、六、八、九、〇	二、一、九、六
汽 車 延 納	四、〇、九、四、一	五、四、七、二
電 信 延 納	八、五、四、九、五	一、六、四
製作其他官工延納	二、二、三、三、一	九、二、三
各廳定額殘返納	一、五、四、四、二	八、二、四、四、一
過渡及諸費違拂殘	二、四、六、二、九	五、二、九、六、七
奉還祿其外常用ヨリ挿入	五、五、四、四、三	二、三、八、〇、一
テール銀常用ヨリ繰入	七、二、五、二、一	四、一、一
雜 收 入	一、二、〇、三、三	六、二、九、八、一
歳 入 通 計	二、三、〇、二、九、五	九、八、二、八、八
八年七月一日越高	一、七、六、七、四	二、九、五、五、九
總 計	四、〇、七、〇、三	八、八、七、八、七
費 目	出 金	部 額
内 國 債 元 利	二、七、二、九、七	八、七、一、六、〇

外國債元利	一、四、一、三、六	〇、九、一、〇
秩祿奉還賜金	七、七、五、〇、〇	〇、〇、〇、〇
造幣寮經費	二、八、七、一、〇	〇、〇、〇、〇
金銀精製費	四、〇、四、一、一	九、九、三、〇
府下諸橋架替費	八、六、二、三、一	四、四、四、〇
府下煉化屋建築費繰替	一、三、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇
三菱會社、貸下金	八、一、六、〇、〇	六、六、七、〇
東京為替會社、貸下金	三、〇、〇、〇、〇	〇、〇、〇、〇
運轉貸出	二、八、二、二、六	二、〇、六、四、〇
救助貸出	七、九、一、五、六	七、八、六、〇
過誤納下庚	四、五、九、六、〇	六、六、三、六
舊諸費	二、二、九、九、五	七、三、一、四
諸官工舊費	二、三、四、九、六	七、六、三、一
雜支出	六、六、三、二、七	八、〇、七、〇
歳出通計	二、四、二、四、八	七、四、三、四、五
假出過額	四、七、二、二、〇	八、一、三、七、八
九年六月三十日殘贏金	一、一、七、三、三、〇	六、九、〇、五、八

總

計

田。六。三。八。九。三。八。八。七

大
義
首

